

平成 22年 4 月 25 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2007～2010  
 課題番号：19530010  
 研究課題名（和文）介護保険法制の法社会学的研究－要介護度調査・認定過程の相互行為分析  
 研究課題名（英文）Legal-sociological studies in long-term care insurance system :  
 Interaction analysis of certifying investigation

研究代表者 北村隆憲（ Kitamura Takanori ）  
 東海大学・法学部・教授  
 研究者番号：00234279

研究代表者の専門分野：法社会学  
 科研費の分科・細目：基礎法学  
 キーワード：法社会学 介護保険 会話分析

## 1. 研究計画の概要

本研究は、介護保険における、要介護度決定過程を法社会学的に研究するものである。特に、要介護度認定調査と、認定審査会の実際の相互行為のビデオ録画のデータを、エスノメソドロジー・会話分析の立場による、ビデオ・エスノグラフィの方法を用いて分析することにある。

## 2. 研究の進捗状況

3年目までに、主たるデータを収集して、分析し、複数の学会報告を行った。論文文化もまもなく完成して、複数の論文に結実する見込みが具体的にすでにある。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）データの特殊性から、当初考えていたよりもデータ数は多くないが、日本で初めての認定調査・認定審査会のビデオデータを収集できており、その分析に基づく学会報告もすでに複数行っている。したがっておおむね当初の予定通りの達成度と考える。

## 4. 今後の研究の推進方策

今後は、最終年を残して、これまでのデータ分析を更に洗練させて、論文を複数刊行すると共に、学会報告も行っていく。

## 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）（翻訳を含む）

- ① 「プロフェッショナル・ヴィジョン－専門職に宿るものの見方」（ジョン・グッドウィン著、北村隆憲・北村弥生訳）『共立女子大学 文芸学部紀要』、第56集、35－80頁、2010年査読無
- ② 「クライアントに有罪答弁をするよう説得すること」（マックス・トラバース著、北村隆憲・内山安夫訳）『東海法学』43号、（2010年3月、91－126）、査読無し
- ③ 「“生ける法(Law in Action)” — エスノメソドロジーの視点から」（マックス・トラバース著、北村隆憲・内山安夫共訳）『東海法学』41号、252－228頁、2009年査読無
- ④ 「法現象へのエスノメソドロジー・会話分析的アプローチ」（北村隆憲、『東海法学』41号、227－223頁、2009年）査読無
- ⑤ 「“ラディカルな” 弁護士の法律事務所という現象」（マックス・トラバース著、北村隆憲・内山安夫共訳）『東海法学』42号、122－118頁、2009年査読無
- ⑥ Yasuko Fukaya, Sachiyo Koyama, Yusuke Kimura & Takanori Kitamura, “Education to promote verbal communication by caregivers in geriatric care facilities”, *Japan Journal of Nursing Science*, Volume 6 Issue 2, 91-103 (2009) 査読有

〔学会発表〕（計7件）

- ① Takanori Kitamura, "Co-constructing Consent in Investigation: A Single Case Analysis of the Certifying Investigation of the Long-Term Care Insurance System in Japan", Paper delivered on July 26, 2007 at Joint Annual Meetings of the Law and Society Association and Research Committee on Sociology of Law (ISA) (国際法社会学会) Humboldt University, Berlin, Germany, July 25 -28, 2007)
- ② 北村隆憲, 「分析と実践を結ぶ質的研究に向けて—ビデオ・エスノグラフィによる介護認定過程の研究—」(第35回日本保健医療社会学会大会、熊本、2009年5月16日17日)
- ③ 北村隆憲, 「要介護度決定過程の質的研究—その趣旨と概要」2008年5月18日(日)日本保健医療社会学会大会(首都大学東京)ラウンドテーブルディスカッション発表
- ④ 岡田光弘, 「実際のことばや語りから『組織』を研究するということ」2008年5月18日(日)日本保健医療社会学会大会(首都大学東京)ラウンドテーブルディスカッション発表
- ⑤ 檜田美雄, 「介護保険認定調査場面のダイナミズム—会話の特徴による特徴」2008年5月18日(日)日本保健医療社会学会大会(首都大学東京)ラウンドテーブルディスカッション発表
- ⑥ 北村隆憲, 「介護認定調査活動における参与枠組みの諸形式」2008年5月18日(日)日本保健医療社会学会大会(首都大学東京)ラウンドテーブルディスカッション発表
- ⑦ 深谷安子, 「介護認定審査会における審査委員の合意形成の方法」日本老年看護学会第14回学術集会での報告、札幌コンベンションセンター、2009年9月26日